

【施工上の留意事項】

〔施工前の確認〕

- 施工前に仕上がりや密着性について、メーカーサンプルなどを利用してテスト施工を行うか、目立たない箇所に塗布して確認すること。
 - ・ フッソ加工仕上げなど、「撥水性の高い素材」に対しては塗剤が素材に密着しない場合があるので、表面処理なし、プライマーの塗布等が必要な場合がある。
 - ※フッソ加工仕上げ、シリコーン樹脂・シリコーンオイル塗布面、メラミン化粧板はのらない。
 - ※その他の建材も事前に十分なテストを行うこと。
 - ・ 浸透する素材では、表面に塗膜が形成されないので、重ね塗りをを行うか、あらかじめ浸透しないように下地処理を行う。
 - ・ 防音対策フロアなどで用いられる「しなる」フローリング材や直貼りの場合には、フリクが影響し塗りムラが出やすい。一枚一枚仕上げるように丁寧に塗布する。また予め作業場で塗布したフローリングを貼り付ける方法を探ると良い。
 - ・ ビアンコートBは、凹みに対して追越し割れない設計となっている為、凹み傷の付きやすさは下地に準じる。事前に十分に確認すること。
- 一般的な塗料と同様に、気温が低いと硬化時間が延びる。気温・湿度等を確認すること。
(気温5℃以下、湿度70%以上では施工しない。ツヤ引け・白化・硬化不良の原因となる)。
 - ・ 気温が高い時期は乾燥しやすいので、乾燥時間の長いビアンコート希釈液(ブタノール)を用いるとレベリングが良い。気温が低い時期にはIPA(イソプロピルアルコール)やエタノールなどの揮発性の高い純アルコール(水分を含まないもの)を希釈液に用いると乾燥時間を早く出来る。
 - ・ 高湿度な状態で施工すると、清掃後の湿気が残存することによる不具合や、ツヤ引け・硬化不良などの不具合が生じる場合がある。
- 施工前の段取りについては、十分に調整し、養生期間等に余裕を見て日程を組む。
 - ・ 新築時や貼り替えを伴う場合には、塗布対象の素材をあらかじめ作業場等で塗布し、現場では貼付作業だけにすると品質管理・工程管理がしやすい。
- 密室になるとアルコールが塗装面に留まり、化学反応が進まないことがある。空気循環が行われるように戸を開けておくか、換気扇を回すなど、密室にならないように注意する。
- 塗装面に直接送風が当たると塗膜硬化においてムラが出る恐れがある。空調を動かす場合には、塗布面に直接風が当たらないように注意する。

〔下地調整・清掃での留意点〕

- 塗布前に下地の傷や劣化部位は予め補修を行う。仕上げのクリア材はビアンコート溶剤(ブタノール)で溶解しないものを選定する(硬化剤と混合する二液タイプなど)。
- 塗布面に油脂分が残らないようにアルコール等を利用して脱脂する。
- 既存のワックスは剥離剤等を用いて、素材を傷めないように除去もしくは脱脂をする。
- 下地洗浄時に大量の水を利用した場合、水分が残っていると硬化不良の原因となるので、中一日以上乾燥させるか、送風機等を利用して完全に乾燥させる(水分が混入すると白化する為)。
- 洗浄に溶剤等を利用した場合には、溶剤を完全に乾燥させる。
- ホコリは、掃除機などを利用して丁寧に取り除く。特に塗布面だけでなく、室内のホコリが溜まりやすい箇所(窓枠、レール、巾木の上など)も、上方から順にホコリが残らないように清掃する。
- 塗剤が付着してはいけない箇所は、塗剤が染み込んだりしないように、隙間無く丁寧にテープ養生等を行う。
- 下地材として塗料を塗布した場合には、塗料の溶剤が完全に揮発した後に塗布する(溶剤の乾燥が不十分な場合にはツヤ引けの原因となる為)。